

12. Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ)の電子化について

欧米諸国にとどまらず、アジア諸国でも数学のジャーナルを電子化して、アーカイブをネットワーク上で構築するプロジェクトが進行中です。

日本においても、独立法人科学技術振興機構 (JST) による J-Stage (科学技術発信・流通総合システム) を用いて、Kyushu Journal of Mathematics (九大) と Funkcialaj Ekvacioi (日本数学会函数方程式分科会) が電子化を実施しております。また、アメリカのコネル大学図書館のもとで世界の数学文献の電子化を推進している Project Euclid には、日本学士院紀要、Tohoku Mathematical Journal (東北大)、Kodai Mathematical Journal (東工大)、Nagoya Mathematical Journal (名大) が参加しています。さらに、北海道大学、東京理科大学、広島大学、岡山大学の紀要が独自サーバーによる電子化を行なっています。

以上の状況で、JMSJ の国際的な評価をより一層高めるために、JMSJ を電子化することが日本数学会の急務となっております。そこで、出版委員会は JMSJ 編集委員会および理事会と密接な連携の下で、JMSJ を 2 つのプラットフォーム上、すなわち

J-Stage

Project Euclid

において電子化する方針を決定しました。日本数学会には日本の数学文献を円滑かつ効果的に電子化していく責任がありますが、日本において技術的な蓄積を図り、情報提供・技術支援を各数学教室に行なうために最適なプラットフォームは何かを考えぬいた末の選択です。今後は、この枠組みで電子化を進めて、日本発の数学文献電子化プロジェクトにつなげていきたいと考えております。会員各位のご理解をお願いいたします。

JST による学術文献のアーカイブ化事業に JMSJ が採択されました。この事業による援助を用いて、既刊分の JMSJ を電子化して J-Stage から公開する予定です。また、この事業によって電子化されたファイルは、

Project Euclid から公開する予定です。

他方、Project Euclid には国立情報学研究所 (NII) の「国際学術情報流通基盤整備事業」(Sparc/Japan) を通して参加する予定です。この事業の援助により、カレント部分の電子化を行ない、Project Euclid 上で公開を行ないます。さらに、この事業で電子化された号は、J-Stage でも順次公開していく予定です。

最後に、今後公開される JMSJ の電子版を世界に広める取り組みについてです。出版委員会専門部会の実験プロジェクトにより OAI-PMH プロトコルを用いたメタデータ交換を行ない、欧米のデータベース上での検索の仕組みに乗ることを計画中です。このプロジェクトには、日本の数学文献全てに参加を呼びかける予定です。

以上でご説明いたしました JMSJ の電子化について、ご意見・ご要望がありましたら、出版委員会・ジャーナル編集委員会・理事会にお寄せいただきますようお願いいたします。

(出版委員会担当理事 戸瀬信之記)